（10） 福祉サービスにおける既製ハードウェア製品の活用について～予備報告～

旭川荘総合研究所医療福祉研究センター　○後藤　祐之
旭川荘総合研究所医療福祉研究センター　　松本　好生

【要　旨】

近年，生活の利便性を向上する目的でIT 機器やその他の測定機器が使われており，小型化･携帯化･低価格化が進んでいる．最も顕著な例としては自動車のＧＰＳナビゲーションシステムを挙げることができる.現在では｢カーナビ｣と呼び習わされており，高価で特殊な機器という印象はほとんどない．ＧＰＳによる位置情報検索は徘徊高齢者等の位置情報把握にも利用されており，国の資料によると平成26年4月1日現在で345の市区町村でＧＰＳを利用した徘徊探知システムが導入されている．また，携帯電話会社やセキュリティー会社が独自に携帯電話や位置情報端末の位置情報を提供することで，子どもの安全確保に利用されている．ＧＰＳの例はハードウェア製品を有効に活用することで，高齢者や子どもの安全確保を図ろうとする取り組みのひとつである．

ＧＰＳの例に見られるように既製ハードウェア製品の中には，福祉サービスとの接点が生まれることで，安全確保や快適性の向上などサービスの質的・技術的向上に資することが期待されるものがあるのではないかと思われる．

本研究は一見すると福祉サービスとは無縁と思われる既製のハードウェア製品を福祉の領域に導入し活用することを意図して企画したものである．今回の発表では発表者の経験の範囲で感じた実務上の問題点と，それに対して何らかの解決手がかりを提示できる可能性がある機器を主にインターネットを利用して検索した結果を報告するとともに，今後の研究の進め方について検討する．